

第55回 医療者がん研修会 (26.11.20)

「もっと知りたい食道がん治療」

食道表在癌の内視鏡治療

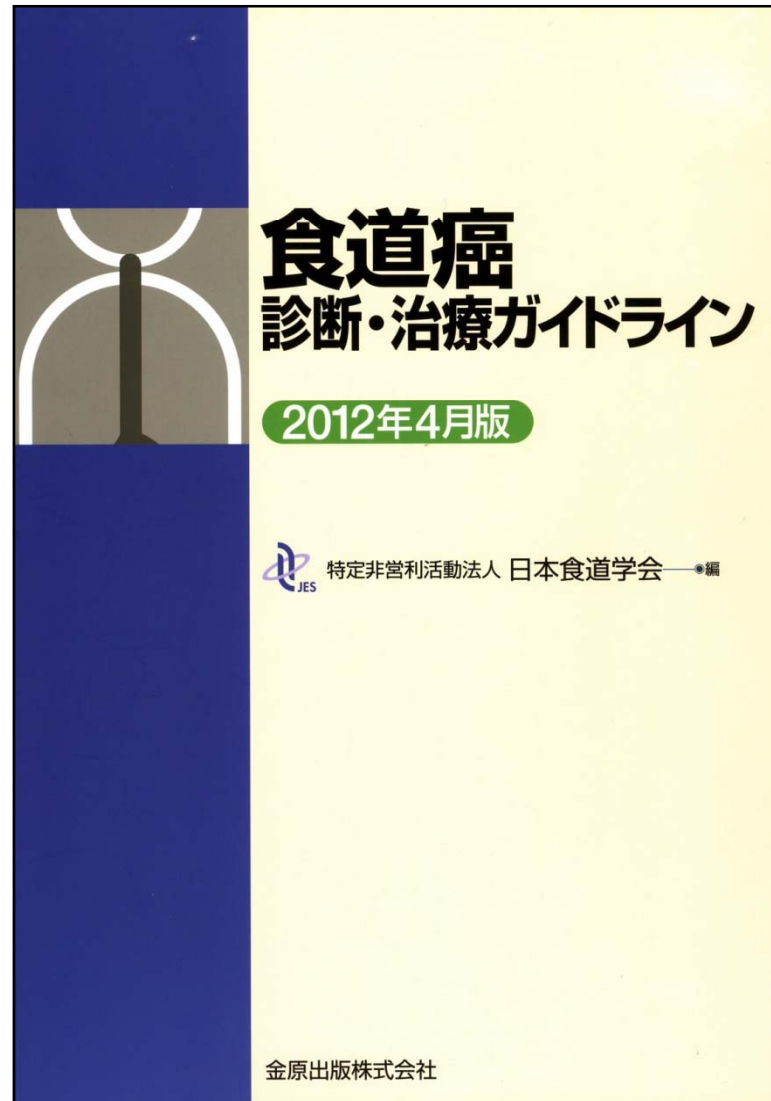
広島市立広島市民病院 内視鏡内科

中川 昌浩

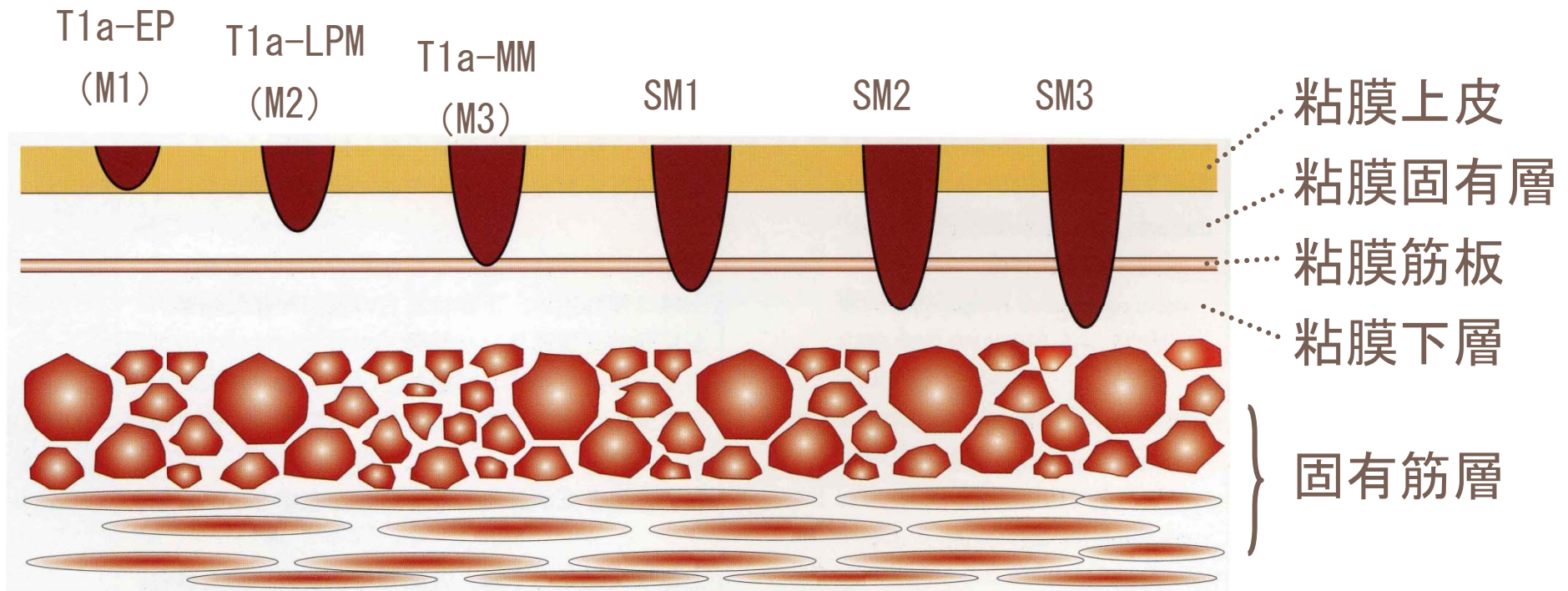
もっと知りたい食道癌内視鏡治療

- 食道癌内視鏡治療
 - 2012年4月版 ガイドライン
- 狭窄予防
 - JCOG 1217
- サーベイランス
 - 異時性多発
 - 他臓器癌

食道癌 診断・治療ガイドライン



食道表在癌 深達度亜分類



表在癌：壁深達度が 粘膜下層 までにとどまる

早期癌： 粘膜層 にとどまる

※ いずれも、リンパ節転移の有無を問わない

内視鏡的切除の適応

適 応 : EP, LPM

リンパ節転移は極めて稀

相対的適応 : MM, SM1 (SM浸潤 : $\sim 200 \mu\text{m}$)

リンパ節転移の可能性がある

《2007年4月版 ガイドライン》 10～15%

MM, SM1癌のリンパ^o節転移危険因子

(第46回食道色素研究会)

- 肉眼型 : 0-I, 0-III
- 長径 : 50mm以上
- 浸潤増殖様式 : INF b, c
- 脈管浸襲 : ly(+), v(+)
- 術前深達度診断 : cSM2 ~ SM3

pMM, pSM1 癌

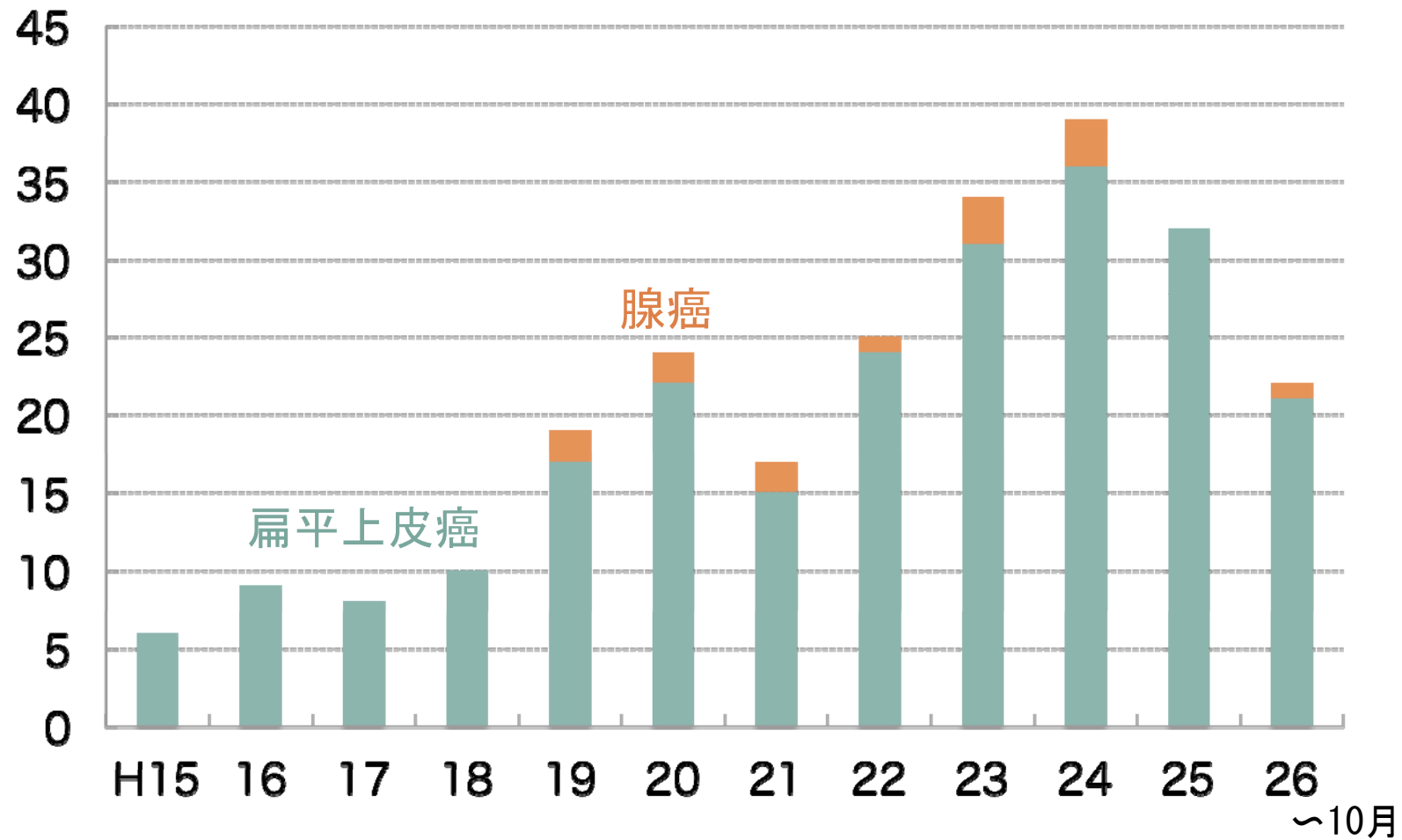
《2007年4月版》

- ・ リンパ節転移リスク：10～15%であり、追加治療を考慮する必要がある。

《2012年4月版》

- ・ 脈管侵襲陽性，**INFc**，垂直断端陽性追加治療を考慮する。
(外科手術, 化学放射線療法, 放射線療法, 化学療法)
- ・ 上記条件：陰性
十分なICのもとで経過観察の選択肢もある。
(CT or EUS : 3～6M毎、 EGD : 6～12M毎)

当院での食道癌ESD



当院での食道癌ESD

2003. 5～2014. 10

扁平上皮癌 231 病変 (94.4%)

バレット腺癌 14 病変 (5.6%)

計 248 病変

当院での食道癌ESD

2003. 5～2014. 10

扁平上皮癌

- 男性 142症例 203病変 (87.9%)
 - 女性 20症例 28病変 (12.1%)
-

計 162症例 231病変

- 平均年齢 : 67.2歳 (31～88)
- 単発例 : 106 (65.4%)
- 多発例 : 56 (34.6%) 2～9 病変

当院での食道癌ESD

2003. 5～2014. 10

扁平上皮癌 162症例 231病変

- 一括切除 225 (97.4%)
- 治癒切除 201 (87.0%)
- 追加治療対象：30病変
 - 外科手術 11
 - 化学放射線療法 4
 - 内視鏡治療 1
 - 経過観察 14

もっと知りたい食道癌内視鏡治療

- 食道癌内視鏡治療
 - 2012年4月版 ガイドライン
- 狭窄予防
 - JCOG 1217
- 経過観察・サーベイランス
 - 同時性・異時性多発
 - 他臓器癌

内視鏡的切除の適応

適 応 : EP, LPM

リンパ節転移は極めて稀

相対的適応 : MM, SM1 (SM浸潤 : $\sim 200 \mu\text{m}$)

リンパ節転移の可能性がある

※ 粘膜切除 $> 3/4$ 周

粘膜切除後の癒痕狭窄の発生が予測される

→ 術前説明と狭窄予防が必要である

※ 表層拡大型癌 : 長軸方向 $> 5\text{cm}$, 0-II 型

複数カ所で深部浸潤することがある

→ 慎重な深達度診断を要する

狭窄予防

- ・ 内視鏡的バルーン拡張（EBD）
- ・ リザベン内服
- ・ ステロイド内服：プレドニン
局注：リンデロン
デカドロン
ケナコルト

狭窄予防

方 法	症例数	非狭窄割合
● プレドニン 30mg 内服、8W	19	95%
予防的EBD	22	68%
● ケナコルト局注、1回	30	90%
予防的EBD	29	34%
ケナコルト局注、3回	21	81%
予防的/狭窄後EBD	20	25%

- Yamaguchi N. Gastrointest Endosc 2011 ; 73 : 1115-1121
- Hanaoka N. Gastrointest Endosc 2012 ; 75 : Suppl AB175
- Hashimoto S. Gastrointest Endosc 2011 ; 74 : 1389-1393

JCOG1217試験

「早期食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の
狭窄予防を目的とするステロイド[®]内服療法および
ステロイド[®]局注療法のランダム化比較第Ⅲ相試験」

- 対象：cEP-LPM, 1/2～非全周, 50mm以下 扁平上皮癌
- 登録期間：2014. 10月～（2.5年）
予定登録患者数：360人
- ステロイド[®]内服：ESD2日後～プレドニソン30mg・漸減, 計8週
ステロイド[®]局注：ESD直後にケコルト100mgを少量ずつ局注
- Primary endpoint：無狭窄生存期間
Secondary endpoints：EBD回数, 有害事象 など

当院での食道癌ESD後狭窄予防

2012. 1～2014. 10

扁平上皮癌 77症例 99病変 → 85潰瘍



3/4周超, ステロイド投与 : 16潰瘍 (18.8%)

プレドニン内服 14

ケナコルト局注 2



狭窄 : 2

ステロイド投与 有効 : 14/16 (87.5%)

もっと知りたい食道癌内視鏡治療

- 食道癌内視鏡治療
 - 2012年4月版 ガイドライン
- 狭窄予防
 - JCOG 1217
- サーベイランス
 - 同時性・異時性多発
 - 他臓器癌

食道扁平上皮癌 危険因子

扁平上皮癌のリスク因子

- ・ 55歳以上の男性
- ・ 大酒家
- ・ ヘビースモーカー
- ・ 野菜・果物の摂取不足
- ・ 食道癌・頭頸部癌の家族歴

内視鏡所見のマーカー

- ・ 口腔, 咽頭, 食道のメラノーシス
- ・ 多発ヨード不染が拡がる「まだら不染食道」

食道癌 同時性・異時性多発

扁平上皮癌 162症例 231病変

男性 142症例 203病変 (87.9%)

女性 20症例 28病変 (12.1%)

◎単発例 : 106

多発例 : 56 (34.6%) 2~9 病変

男性 : 単発 90、多発 52 (36.6%)

女性 : 単発 16、多発 4 (20%)

食道癌 他臓器癌

扁平上皮癌 162症例 231病変
男性 142症例 203病変 (87.9%)
女性 20症例 28病変 (12.1%)

◎他臓器癌

- 胃癌

男性：25 (17.6%)、女性：4 (20%)

- 頭頸部癌

男性：13 (9.2%)、女性：2 (10%)

→ (2011.4月～) 下咽頭ESD：4

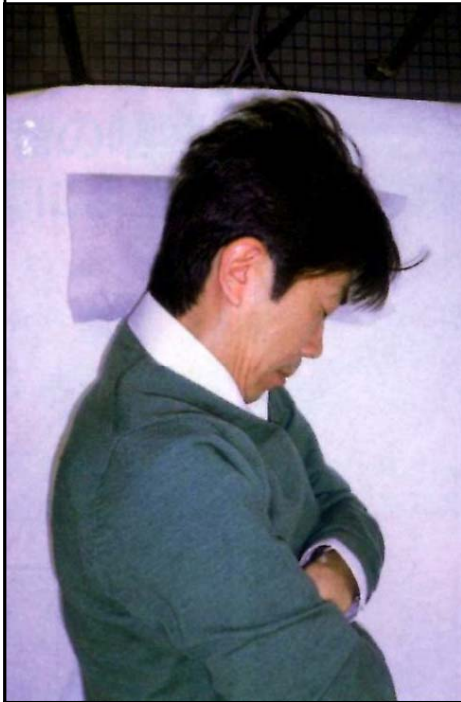
咽頭展開法

臭いを嗅ぐ体位 (sniffing position)

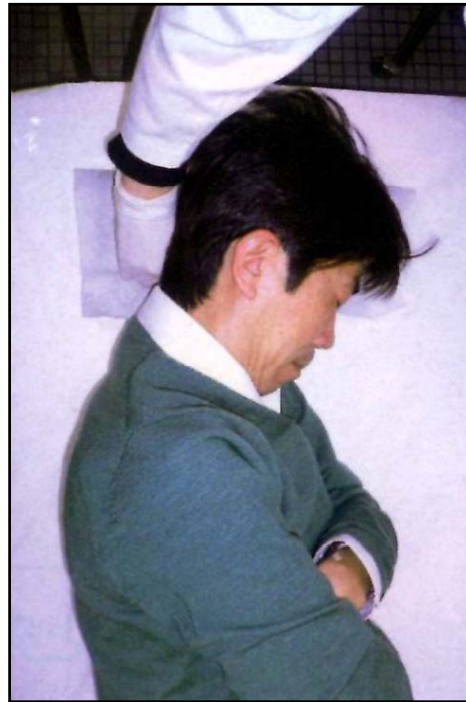
1. 左側臥位
2. 頸部を下顎が前胸部に接触する程度に前方に屈曲させる
3. 被験者の後頭部に拳を当てる
4. 母指と小指を広げて
約20cm前方に被験者の後頭部を押し出す
5. 母指で被験者の後頭部を固定しながら
顔を前に突き出す様に下顎を引き上げさせる

咽頭展開法

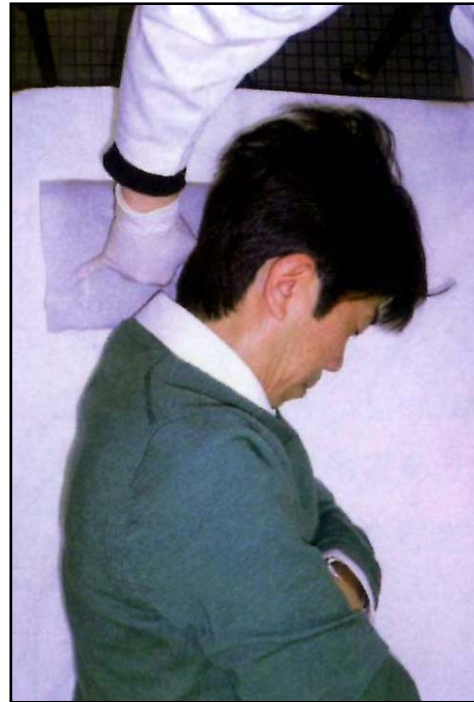
2



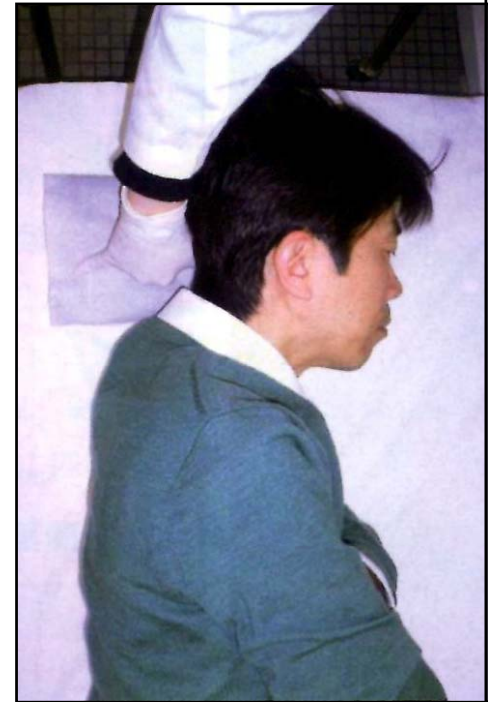
3



4



5



まとめ

- cEP～LPM癌が内視鏡治療の適応であるが、粘膜切除 \geq 3/4周の際にはステロイド内服、局注により術後狭窄を予防する。
- cMM～SM1癌も相対的適応として内視鏡治療対象になるが、pMM～SM1癌では病理組織所見により追加治療を検討する。
- 治療後内視鏡再検時には食道異時性多発病変のみならず、胃癌、頭頸部癌などの他臓器癌にも留意しなければならない。